

- 【事務局】 1 開 会
- 【事務局】 2 あいさつ
- 【事務局】 3 議 事
- 議 題 (1) 令和元年度シカ管理対策の実施状況について
- (2) 令和元年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価報告について
- (3) 令和2年度シカ管理対策について
- (4) その他

規約により堀野委員長が議事を進行。

【堀野委員長】

それでは議事に入ります。議題1「令和元年度シカ管理対策の実施状況」について事務局から説明願います。

【事務局】

(資料1により説明)

【堀野委員長】

令和元年度シカ管理対策の実施状況について、質問等がありますか。

【青井委員】

資料No.1-1「シカ捕獲実績」について、一関市と平泉町で性別不明が多数見られますが、個体数管理の上で重要な基礎データと思われるので、きちんと性別の記録をとるべきです。

【堀野委員長】

そのとおりだと思いますので、対応をよろしくお願いします。

【青井委員】

8ページ(5)の侵入防止柵の設置状況について、防護柵の設置距離をシカとイノシシの合算値で出していると思いますが、防護柵の形状はシカ用とイノシシ用ではわりと違いますので分けて集計した値を出すべきだと思います。

【事務局】

侵入防止柵は電気柵を設置することが多く、ご指摘のとおり、獣種により設置の高さや段数、柵の形状が異なることも多いですが、シカとイノシシ兼用の場合も少なからずあることや柵を設置した後に段数を変えて対象獣種を変更している場合もあり、シカ用とイノシシ用を明確に分けた集計が難しい状況でもあります。

【今泉委員】

事務局説明に補足ですが、青井委員ご指摘のとおり、集計が粗いところもあるので改善を検討したいと思います。

【菅原委員】

資料1について、2点ほど確認させてください。1点目は9ページのシカと列車との衝突事故件数ですが、三陸鉄道は98件ではなく121件でよろしいですか。

【事務局】

121件です。

【菅原委員】

もう1点は、資料№1-6のアンケート調査についてです。1ページの図1の地図を見ると、回答者の位置情報を示す赤色の点が少ない市町村があり、例えば花巻市や宮古市で顕著です。回答者は今後増やす予定はありますか、あるいはこのままの対象者でいく予定ですか。

【事務局】

調査対象者については、県から各市町村に対して地域の農業精通者の推薦を依頼しており、推薦者の内訳としては行政区長や農業委員等の市町村が多い状況です。ただし、一部の市町村では個人情報保護の観点から、推薦者の名簿の提示が困難な場合があります、そのような市町村においては、県が実施する指定管理鳥獣捕獲事業実施者（ハンター）のうち農業に従事している方々をお願いをし、なるべく回答者がゼロの市町村が発生しないように対応しておりますが、花巻市または宮古市ではどうしても少なくなってしまった結果です。今年度も引き続き調査を予定しており、少しでも多くの方に調査に協力をお願いしたいと考えています。

【堀野委員長】

質問ではなくコメントですが、アンケート結果（シカ）について、シカがいないと答えている方が結構多く、さらに、アンケートに回答したのが農業精通者ということなので、各地域で農業に携わられていてもシカに気づいていない方も少なからずいるということに少し驚きました。このことも念頭に置いて今後のシカ対策を進めなければいけないと感じました。

【宇野委員】

資料1の1ページの捕獲頭数について、令和元年度が約1万4000頭であり、かなり捕獲ができていますと感じます。平成29年度も約1万4000頭ですが、平成30年度は暖冬の影響もあり、シカが捕獲しにくかったことを過去の委員会で聞きましたが、令和元年度も積雪がほとんどなかったにも関わらず、これだけ捕れた要因は何ですか。例えば、シカが増えたためですか。

【菅野委員】

年度によって結構ばらつきがあり、シカも定量的に毎年少しずつ増えていくものではないので、その年の天候や雪の積もり具合によっても捕獲数は大きく左右されます。

令和元年度は、雪が少なくほとんど降らなかったため、シカは山の上側から降りて来なかったことや狩猟者が山を奥まで入っていくのが困難で捕獲がしづらい状況ではありましたが、主に有害鳥獣捕獲と指定管理鳥獣捕獲で約14,000頭を捕獲できました。なお、有害鳥獣捕獲は年々捕獲数が伸びているところであり、また、わな猟がメインです。わな猟は天候にあまり左右されませんが、銃猟では天候に左右されるので、これも捕獲数のばらつきに影響がある要因です。

【宇野委員】

わな猟での捕獲数が上がっているということは、山ではなく里でシカが多くいると言えると思いますが、里でかなり多くの数のわなを仕掛けていて、それで捕れているということですか。里のシカの数、密度が高いということによろしいですか。

【菅野委員】

おっしゃるとおりです。昨年の狩猟免許の登録状況を見ると、わな猟がとて多かったです。第一種銃猟者がだんだん少なくなっていることも一つの要因かと思っております。

【菅野委員】

資料1-4のニホンジカ捕獲応援隊の設置について、応援隊1人にくくりわなを1基貸し出し、応援隊の所有農地等に設置とありますが、これは応援隊がわなを設置するのですか、それとも実施隊員が設置するのですか。

【奥寺委員】

わなの設置は、応援隊員の農地等に実施隊員が設置しております。

【深澤委員】

資料1の6ページの②林業被害について、令和元年度の被害額が近年の値に比べて2倍くらい増加していますが、その理由は何ですか。

【及川委員】

被害は主に植栽木で、再造林として伐採跡地に造林した若い苗への食害です。急に2倍くらいになったのは、釜石市、陸前高田市、住田町、宮古市等、一部の市町村において被害額が大きく計上されたためです。

【深澤委員】

釜石で被害が増えたのは、山火事跡地への造林が理由ですか。

【及川委員】

その跡地については、再造林を進めると同時に防護柵の設置もしているので、そこでの被害が増えているということではなく、それ以外の場所での被害が増えているという理解をお願いします。

【深澤委員】

県森連では、薬品会社からの協力を得ながらシカ被害防止のために塗布剤の活用を試験的にやってみようと動いておりますので、参考までにご報告します。

【堀野委員長】

資料1の5ページの農業被害額について、飼料作物の被害の割合が年々減少傾向ですが、これは何か理由がありますか。

【今泉委員】

地域での取組みの着実な成果だと思います。具体的には、草地周辺での電気柵設置や捕獲の推進。ただし、牧草地面積自体の減少も若干あると考えています。

【堀野委員長】

次の議題に進みたいと思います。議題2「令和元年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価報告」について事務局から説明願います。

【事務局】

(資料2により説明。)

【堀野委員長】

令和元年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価報告について、環境省に報告をする資料ですが、修正を要する点などの質問、意見等がありますか。

【宇野委員】

資料2の4ページの第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について、令和5年度までに個体数を半減させるため、という記述は必要ですか。

【事務局】

第二種特定鳥獣管理計画における管理目標として記載をしておりますが、必ずしも記載を要するものではないので、修正すべきとの意見があれば対応を検討します。

【宇野委員】

記載を改めてほしいという要望ではないので、結構です。

【堀野委員長】

次の議題に進みたいと思います。議題3「令和2年度シカ管理対策」について事務局から説明願

ます。

【事務局】

(資料3により説明。)

【堀野委員長】

令和2年度シカ管理対策について、質問、意見等がありますか。

【堀野委員長】

資料3の3ページの県独自の個体数推定について、これから考えていくとのことですが、具体的に計画している方法はありますか。

【事務局】

個体数の推定について、糞塊法による生息状況調査やアンケート調査の結果、さらに、これまでに収集してきた捕獲データ等を使用して推計したいと考えています。

【堀野委員長】

岩手県は県土が広いので、よほど工夫しないと信頼のおける数字を出すのは難しいと思いますが、よろしくをお願いします。

【宇野委員】

同じく、個体数推定について、県が半減目標の計算に使用している4万頭の数値は、平成24年度の推計値であり、そこから7年が経過していることから、シカの生息数はかなり変わっていると思います。また、4万頭の数値につられて年間捕獲目標を1万数千頭としていると、今後5年間でかなり生息数が増加するのではないかと心配しています。したがって、早めに現在の個体数の推定を行い、計画を立て対策を検討すべきと考えます。

また、来年度の捕獲目標に関して、これまでの最大捕獲数を上回る頭数を目標にしており、生息数の増加に対する危機感を抱いていると感じましたが、これはあくまで現段階で捕れている数を基準とした目標値であり、半減を達成するための目標値となっていないことを念頭に置き、是非とも個体数推定の結果を早い段階で出し、議論すべきと思います。

【堀野委員長】

貴重なご意見をありがとうございます。今年度の捕獲目標数については私も評価できると思っております。ただ総数だけがピックアップされてきておりますが、せっかく県内のシカを三つの地域に分けて管理しようということですから、令和2年度の捕獲目標数の14,500頭についても、それぞれの地域で、どれだけ捕るという目標等を考えるべきではと思います。もし今年度の計画に間に合えば、そこはきちんと説明する形で数字を出していただければと思いますが、間に合わないのであれば来年以降に是非検討をお願いしたいと思います。

【事務局】

ありがとうございます。個体数の推定を実施したうえで検討させていただきます。三つの区域に分けた分析をしていくことは非常に大事なと感じているところですが、指定管理鳥獣捕獲事業の推進にあたり、狩猟者のことも考えていく必要があります。現状では居住地域にこだわらず、地域をまたいだ県内全域での捕獲を可能とし、実施いただいております。区域分けでの目標管理については、今後考えていくべきことの御意見としてお受けしたいと思います。

【堀野委員長】

ありがとうございます。県独自の個体数推定の値についても、総数だけではなく、地域ごとの値が出てくれば、それと照らし合わせて方針が決まっていくのではないかと思いますので、よろしくお願いします。

他にはないでしょうか。では、議事を事務局にお返しします。

【事務局】

以上で、令和2年度シカ管理検討委員会の一切を終了します。本日は長時間にわたりましてありがとうございました。